

【様式3】

農地整備整備事業（経営体育成型）
真壁町山尾地区 計画変更理由及び内容書
（区画整理）

本地区は、区画整理を行うことで生産性の高い優良農地を確保するとともに農業の生産性の向上を図り、担い手への農地集積の加速化を進めているところである。

令和3年度に着工し事業を実施してきたが、事業量の変更及び工法変更によって事業費が増となり事業計画の変更が必要となった。

1. 計画変更の理由及び内容

【受益の変更】

① 受益地の除外

換地原案作成時に同意が得られず、事業効果も小さい区域であったため除外となった。

② 受益地の編入

未相続となっていた土地の相続手続きが完了し、事業効果の大きい区域であったため、再交渉の上編入となった。

〔受益面積〕

（単位：ha）

地目	変更前	変更後				増△減	増減率
			除外	編入	地目変更		
田	23.3	21.4	1.5	0.1	0.5	△ 1.9	△ 8.0 %
畑	5.3	4.7	0.3	0.1	0.4	△ 0.6	△ 11.0 %
計	28.6	26.1	1.8	0.2	0.9	△ 2.5	△ 8.0 %

〔地区面積〕

（単位：ha）

地目	変更前	変更後				増△減	増減率
			除外	編入	地目変更		
田	23.3	21.4	1.5	0.1	0.5	△ 1.9	△ 8.0 %
畑	5.3	4.7	0.3	0.1	0.4	△ 0.6	△ 11.0 %
道路	3.6	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0	- %
水路	2.7	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	- %
計	34.9	32.8	1.8	0.2	0.9	△ 2.5	△ 7.0 %

【事業量変更】

（1）純工事費

① 整地工

編入と除外、地目変更により、農地面積が減となった。

（単位：ha）

区分	変更前	変更後	増△減	増減率
整地工(水田)	23.3	21.4	△ 1.9	△ 8.0 %
整地工(畑)	5.3	4.7	△ 0.6	△ 11.0 %
計	28.6	26.1	△ 2.5	△ 8.0 %

△ 21,298 千円

△ 21,298 千円

△ 7,960 千円

② 道路工

△ 1,156 千円

地区除外及びほ場への進入路確保のため、道路配置が変更になったことによる道路延長の減。

(単位:m)

区分	変更前	変更後	増△減	増減率
支線道路(As)	357	361	4	1.0 %
支線道路(G)	4,718	4,562	△ 156	△ 3.0 %
計	5,075	4,923	△ 152	△ 2.0 %

③ 用水路工

14,129 千円

実測による水理計算の結果、高位部の取水条件が不利となったことから、シングル配管からダブル配管に変更して高位部に確実に送水されるよう変更したことによるパイプライン延長増。

(単位:m)

区分	変更前	変更後	増△減	増減率
パイプライン	5,733	6,707	974	16.0 %
計	5,733	6,707	974	16.0 %

④ 排水路工

△ 22,969 千円

実施設計及び換地作業の結果、排水路延長が減となったことによる減。

(単位:m)

区分	変更前	変更後	増△減	増減率
支線排水路	3,796	3,072	△ 724	△ 19.0 %
小排水路	1,971	1,966	△ 5	0.0 %
計	5,767	5,038	△ 729	△ 12.0 %

⑤ 暗渠排水工

△ 3,342 千円

編入と除外、地目変更により、農地面積が減となった。

(単位:ha)

区分	変更前	変更後	増△減	増減率
暗渠排水工	23.3	21.4	△ 1.9	△ 8.0 %
計	23.3	21.4	△ 1.9	△ 8.0 %

【工法の変更】	161,247 千円
(1) 純工事費	138,605 千円
① 整地工(転石撤去処分)	80,000 千円
・ 転石撤去処分 (1,230 m ³ 荒造成の際に、基盤土から想定されなかった転石が多く確認され、基盤切盛の支障となるため撤去処分を行ったことによる増。	
② 整地工(法面保護工)	5,553 千円
・ 法面保護工変更 (A= 9,682 m ²) 土質調査により、法面が細砂～細中砂からなる緩い砂層であることが判明し、表面水による溝掘れが懸念されることから植生シートによる法面保護工を施工することになったことによる増。	
③ 道路工	3,231 千円
・ 幅員変更 (L= 361.0 m) 当初、アスファルト道路幅員について5.0/4.0mとしていたが、担い手への農地集積・集約計画が変更されたことにより大型機械の利用が計画され大型機械のすれ違いが想定されるようになったため、幅員を6.0/5.0mに変更したことによる増。	
④ 道路工	13,035 千円
・ 舗装構成変更 (L= 361.0 m) 当初、アスファルト道路の舗装構成は農道基準により表層(4cm)路盤(15cm)で計画していたが大型機械の通行が増えることになったため、Ⅱ交通相当の舗装構成に変更したことによる増。	
⑤ 排水路工(道路横断暗渠工)	12,436 千円
・ 基礎工変更 (N= 15.0 箇所) 当初、道路横断暗渠工の基礎は直接基礎で計画していたが、土質調査結果による検討の結果、マットレス工法による基礎地盤改良に変更したことによる増。	
⑥ 排水路工(根水処理工)	14,270 千円
・ 根水処理工変更 (L= 1,427 m) 荒整地施工時に、山沿いの地区界部及び背後地に山地をもつ水田の法尻部に湧水が確認され将来的にも営農に支障をきたすため、対策として根水処理工を追加したことによる増。	
⑦ 排水路工(落差工)	10,080 千円
・ 落差工変更 (N= 36.0 箇所) 実施設計により、草刈等維持管理労力を軽減するために開水路の法面発生を抑制する二次製品フリュームによる落差工を採用したことによる増。	
(2) 換地費	8,668 千円
・ 実施設計による増。	
(3) 工事雑費	4,383 千円
・ 実施設計による増。	
(4) 事務費	9,591 千円
・ 実施設計による増。	

2. 効用

上記の変更に伴い、各効果についても再計算し変更する。

(単位:千円)

効果項目	年総効果額			年総増加所得額		
	変更前	変更後	増△減	変更前	変更後	増△減
作物生産効果	17,936	24,432	6,496	4,744	2,586	△ 2,158
営農経費節減効果	35,719	34,920	△ 799	38,181	37,443	△ 738
維持管理費節減効果	△ 3,212	△ 4,134	△ 922	△ 1,792	△ 2,262	△ 470
国産農産物安定供給効果	2,429	3,023	594	0	0	0
計	52,872	58,241	5,369	41,133	37,767	△ 3,366

	変更前	変更後	増△減
総費用総便益比(投資効率)	1.26	1.05	-0.21

※変更前と変更後の経済効果算定手法は総費用総便益比方式。

3. 総事業費

上記の変更及び自然増のため総事業費を変更する。(単位:千円)

	変更前	変更後	増△減	備考
工事費	820,000	1,146,000	326,000	(内自然増 200,025千円)
工事雑費	20,000	27,000	7,000	(内自然増 2,617千円)
事務費	41,000	56,000	15,000	(内自然増 5,409千円)
計	881,000	1,229,000	348,000	

4. 事業期間

区画整理工において、工事着手後に基盤にある石の確認及び高低差があるため基盤整地に時間がかかると判断し、2工区に分けて整地工を行う必要があったため2か年の延長

砂防指定河川改修の影響による、用水路工の設計見直し及び施工時期の調整による1か年の延長

上記の理由から工期を3年延長する。

採択年度	着工年度	完了予定年度		増△減
		変更前	変更後	
令和 3 年度	令和 3 年度	令和 8 年度	令和 11 年度	3 年